

植物防疫講座

虫害編-52

花木に発生する主要害虫の生態と防除法

一般社団法人 いばらき樹木医会 **あ べ**

ゆたか 豊

はじめに

花木とは花や実を鑑賞する樹木を指す。公園にはサクラなどの高木、個人宅には低木のツツジや食用になるジュンベリーやフェイジョア等も植えられている。花木には様々な樹種があり、これらの彩は私たちの生活に豊かさを与え、さらに美しい花には虫が来て実を結び、野鳥が訪れるといった生き物のつながりも感じることができる。しかし、これらの花木には同時に多種の害虫も発生し、人の手による保護なしでは健全な生育をすることができない。

本稿では花木につく主な害虫について形態、生態、防除法、ならびに農薬の使い方について述べる。

I 花木を加害する主な害虫の生態と防除法

1 チョウ目害虫

①チャドクガ *Euproctis pseudoconspersa*

ドクガ科の蛾で、ツバキ、サザンカを加害する。成虫は開張 25～30 mm、濃～淡黄色で、翅端に 1～2 の黒点がある（図-1）。幼虫は体長約 25 mm、頭部は黄褐色、腹部は淡黄褐色の地に黒褐色の瘤起が各体節にあり、白色長毛が生じる。成虫・幼虫とも毒毛を持ち、触れると発疹ができ、長い間“かゆみ”を持つ。葉裏に産卵された卵塊で越冬、4 月下旬に孵化し、若齢幼虫は葉肉を齧って食害するので、被害葉は表皮のみを残し白く見える（図-2）。成長すれば全葉を食害、約 55 日の幼虫期間を経て、落葉下などで繭を作って蛹化する。6 月に越冬世代成虫が現れ、7～9 月に幼虫が加害する。第一世代成虫は 10～11 月に現れ、産卵する（年 2 回発生）。

葉裏に産卵された卵塊で越冬するので、卵を対象とした冬季の捕殺、幼虫を対象とした春季の薬剤散布が有効である（図-3）。なお、毒毛は繭、卵塊にもついているので、捕殺時は長そで、長ズボン、ゴム手袋、マスク、メガネなど、できるだけ肌を露出しないように注意する。



図-1 チャドクガ成虫と卵塊（写真提供：本山 直樹氏）



図-2 食害痕と第 2 世代目 1 齢幼虫（7 月中旬）
（写真提供：本山 直樹氏）

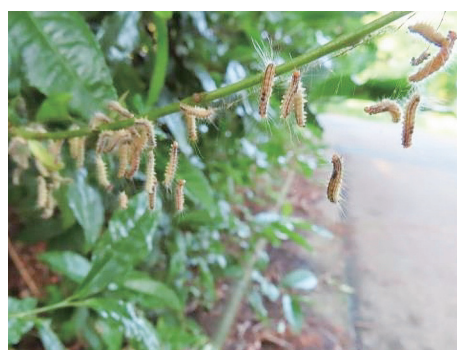


図-3 殺虫剤を噴霧され垂れ下がる老熟幼虫
（写真提供：本山 直樹氏）

②イラガ *Monema flavescens*, ヒロヘリアオイラガ *Parasa lepida*

これらイラガ科の幼虫は体表面に毒針が生えおり、刺さると激しい痛みを生じるので注意が必要である。

イラガの成虫は開張 30～40 mm、前翅は黄色で外側

Ecology and Control Methods of Major Pests Occurred on Flowering Trees. By Yutaka ABE

（キーワード：花木、害虫、生態、防除法）